

新型コロナウイルス対応緊急支援助成 ～ひとりにしない、させない助成～ 採択団体(全9団体)

※助成額は実行団体よりご提出いただいた事業計画書・資金計画書に基づき算定しています。

| 団体名 | 事業名 | 事業概要 | 選定理由 | 助成額 | |
|----------------|---------------------------------------|--|---|----------------------|---|
| 一般社団法人えんがお | 不登校生支援及び山間部の高齢者支援事業 | <p>受けた相談をもとに2つの事業を実施する。</p> <p>①山間部(黒羽地区)への高齢者の生活支援出張所の新設②不登校生向けフリースクールの新設である。①は、山間部の高齢者の孤立の深刻化と、生活で困った際に柔軟に対応できる組織の不足により生活支援の依頼が相次いでいるが、範囲外であり対応できないことから、出張所をつくり定期的に対応する。若者との会話の時間も作り、つながりと会話を重視する。</p> <p>②地域サロンの中に新たにスペースを作り、高齢者や障害を抱えた方も日常的に関われるフリースクールを目指す。面談・保護者会も定期的に行い、保護者へのケアや、専門職が多い法人特性を生かし、障害へのケアも重点的にやっていく。</p> | <p>公的な支援の手が届きにくい小規模な山間地域に着目し、住民の抱える課題を解決するアイデアと姿勢が高く評価された。社会課題解決のための取り組みであるにもかかわらず悲壮感がなく、多世代の住民が楽しみながら参画していける場づくりを行っている点も期待感が持てる。</p> | 【助成総額】 4,852,000円 | <p>【直接事業費】 4,852,000円</p> <p>【管理的経費】 0円</p> |
| 子どもの居場所OZ | コロナ禍で生活が変わってしまった子どもたちへ子どもらしく過ごせる地域づくり | <p>●子どもの居場所事業 足利市有楽町842-6の空き店舗を借りて、常設のフリースペースを開設。コロナ感染拡大で行き場のない子どもの急激な増加にともない、子どもの居場所としてやひとり親世帯への支援、保護者の相談場所、子どもに関わる諸問題に子どもを主体とした寄り添う支援を行う場所をつくる。</p> <p>●こども食堂事業 子どもの居場所事業と同じ有楽町の店舗内に常設のこども食堂を開設。コロナ感染拡大で困窮した子どもへの食事支援やこども食堂へ寄付された食材を配布するなど、様々な困窮者への食事の提供を通じてソーシャルコミュニティの活性化や向上を目指す。</p> | <p>大半の団体が実施日を絞って開催していることも食堂を常設で設置することで、切れ目のない支援を届けようとする取り組みと熱意が高く評価された。ガバナンス体制を強化しながら活動を進めていってほしい。</p> | 【助成総額】 3,500,000円 | <p>【直接事業費】 3,500,000円</p> <p>【管理的経費】 0円</p> |
| 特定非営利活動法人風車 | 悩みを抱え込まずに話せる居場所づくり | <p>当会と関わる親は以前から子育てについて悩んでいたが、コロナ以降さらなる不安や悩み、ストレスを抱えている。親の疲れが子に伝わり、子どもがふさぎ込んでいる家庭や、子どもへの接し方が疲弊になり、子どもが愛情を求めた結果、性犯罪に巻き込まれる事態も発生している。そのため、これまで通り居場所を運営しつつ、親同士が交流し、相談員に悩みを相談でき、子どもへの接し方を勉強できる特定の日を月二回程度設ける。また家庭環境により悩みを抱えた子どもが相談できる日を月一回程度設ける。以上のことにより今まで以上に子どもを守る環境を作る。さらに、居場所「風の家」で利用者に安心を与えるため経年劣化が目立つ箇所の修繕も行う。</p> | <p>様々な課題を抱える子どもや保護者等に対し、専門性を持ったメンバーが支援を行ってきた実績や、地域住民と一体となって楽しみながら事業を展開している点に高い評価が集まった。</p> | 【助成総額】 2,400,000円 | <p>【直接事業費】 2,200,000円</p> <p>【管理的経費】 200,000円</p> |
| 一般社団法人子ども食堂ノエル | 食事・学習支援、農業体験、ひとり親支援 | <p>①こども食堂の運営(テイクアウトきずな弁当の提供) ②フードパントリー ③学習支援(支援員による学習指導) ④子どもたちの農業体験学習 ⑤ひとり親家庭の支援</p> | <p>地域住民と連携しながら子どもの農業体験や支援を展開している点に高い評価が集まった。深刻な社会課題を解決する取り組みであるにもかかわらず、人を巻き込み楽しみながら支援に結び付けている実績も評価された。他のこども食堂とも積極的に連携しながら継続的に取組んでほしい。</p> | 【助成総額】 5,000,000円 | <p>【直接事業費】 4,228,000円</p> <p>【管理的経費】 772,000円</p> |

| | | | | | |
|---|-------------------------------|--|--|------------------------------|---|
| <p>特定非営利活動法人那須高原自然学校</p> | <p>自然体験の輪を広げよう！！</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験活動を求めている団体と連携した日帰り及び宿泊型の自然体験活動機会の提供(子ども支援団体、学校、保育園や幼稚園、学童保育、子ども団体等) ・親子の居場所づくり(参加者の子どもだけでなく、親同士のネットワークや関係性の構築) ・自然体験活動の意義を伝えるイベントの企画立案 ・県内の自然体験活動団体のネットワークやフォーラム(意見交換会) ・県内の自然体験活動団体の情報発信プラットフォームの活用 | <p>前年度採択された際の団体間のネットワークを活かした発展的な取り組みが評価された。 各団体の持つガバナンス既定のギャップを埋めながら、子どもの体験活動機会を充実させていってほしい</p> | <p>【助成総額】 4,951,500円</p> | <p>【直接事業費】 4,021,000円</p> |
| <p>特定非営利活動法人子どもの育ちを応援する会</p> | <p>県北子どもまるとサポート事業</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●子どものリビング:学童等に預ける事が難しい日曜日等に予約制完全無料の昼食付子どもの居場所事業を行う(市内無料送迎)。 ●こどもおべんどう:活動が浸透し今年度は、対象小学校を増やす準備を整えている(現在鍋掛小学校打診中)。 ●困窮家庭支援デリバリー:学校が独自に把握する家庭を紹介されることがある為「こどもおべんどう」に付随する重要な事業であり継続が要性。 ●地域の社会福祉法人より、空き家屋となっていた戸建を事業所として活用の提案があった為、事業所としての環境を整える必要がある。 | <p>支援が難しいDV被害者に対して価値提供を行っていることや、地道な活動をしながら新たなネットワーク形成に結び付けている点に対して評価が集まった。 ガバナンス体制を強化しつつ、子どもの居場所づくりを積み上げていってほしい。</p> | <p>【助成総額】 3,000,000円</p> | <p>【直接事業費】 3,000,000円</p> <p>【管理的経費】 0円</p> |
| <p>特定非営利活動法人キーデザイン</p> | <p>不登校支援の包括的な支援体制の整備と強化</p> | <p>相談支援の充実化と地域コミュニティへのマッチング促進のためのアクションを起こす。3つある。 1つ目は、LINE相談の延長で行っていた有料電話相談の無償化。これにより、支援のスピードアップ、質の向上が可能となり、短期間での課題解決につながる。 2つ目は、オンラインでの親の会の実施。同じ境遇にある保護者同士で対話する場を設けることで、孤独感を解消し、前向きに歩めるようになる。 3つ目は、栃木県版のフリースクールや親の会など不登校支援に関する情報を掲載するポータルサイトを作成する。 昨年度作成した「栃木県フリースクールマップ」を参考にし、webサイトにすることで誰もが閲覧できる環境を整える。</p> | <p>多様化・複雑化するニーズに対して多彩なツールを用いて相談支援を行っている点に加え、元当事者をエンパワメントして支える側として参画させている点も高い評価が集まった。 相談にはスキルも求められることから、相談技能向上を測りながら取り組みを発展させていってほしい。</p> | <p>【助成総額】 3,997,570円</p> | <p>【直接事業費】 3,796,600円</p> <p>【管理的経費】 200,970円</p> |
| <p>特定非営利活動法人そらいろコアラ</p> | <p>栃木県真岡地域の妊娠・育児期の孤立・虐待予防</p> | <p>栃木県真岡地域における妊娠・育児家庭の孤立、不適切な養育とその世代連鎖の予防を目的に、 ①自治体・医療機関と連携した要支援児童・養育者の居場所の提供、 ②特定妊婦・要支援妊産婦の居場所の提供・対面相談、 ③要支援家庭への物資提供および訪問相談を行うとともに、必要に応じて ④行政・民間団体・医療機関らと支援連携を行う。さらに、 ⑤妊娠・出産・育児に関する無料のLINE相談窓口や ⑥地域イベントの定期実施による、アウトリーチでの要支援家庭の発見と、地域団体及び住民の子育てコミュニティづくりを促す。さらに、 ⑦変化するコロナ禍の課題・ニーズを把握し支援につなげるための調査・提言活動を実施する。</p> | <p>課題解決の必要性が高いテーマに向き合う活動であることや、自治体・医療機関と連携しながら事業を推進している点に高い評価が集まった。 また、外国人女性の支援も社会的必要性が高まっていることから、活動に期待感が持てる</p> | <p>【助成総額】 4,760,000円</p> | <p>【直接事業費】 4,392,375円</p> <p>【管理的経費】 367,625円</p> |
| <p>とちぎ公立夜間中学校研究会 ※本団体につきまして、助成事業終了後、ガバナンス、会計処理等の不適切な事象が発見されたことをうけ、令和6年4月26日、本助成の団体としての選定の取り消し、助成金の全額返金となりました。</p> | <p>とちぎ夜間中学校設置推進PROJECT</p> | <p>①栃木県に公立夜間中学校を設置する事で現在のコロナ禍で増加傾向にある小学校・中学校・高校の不登校児童生徒の'学べる'居場所作りに向けた活動全般。 ②栃木県内の五か所(宇都宮市・足利市・小山市・那須塩原市・真岡市)にて各地のPTAやフリースクール系団体と連携しコロナ禍での不登校児童生徒と保護者を始め、'生きる為の学び'を必要とする全ての方に必要な夜間中学を知って理解を求めめる為のシンポジウムと関係映画の上映会を無償で年間を通して開催します。 ③文科省や関係有識者を毎回全国から招聘して特に宇都宮市での開催では大規模な開催を計画します。</p> | <p>栃木県で公立夜間中学校が設立されていない中での活動であることや、社会的な理解が進みづらい分野に挑戦する姿勢について共感と評価が集まった。 達成に向けてロードマップを描き、課題について認知していなかった人にも共感を得られるような工夫をしながら取り組んでほしい。</p> | <p>【助成総額】 2,000,000円</p> | <p>【直接事業費】 1,600,000円</p> <p>【管理的経費】 400,000円</p> |